24日　日曜

ルカ

2:1 そのころ、全世界の住民登録をせよと
いう勅令が、皇帝アウグストゥスから出た。
2:2 これは、キリニウスがシリアの総督で
あったときの、最初の住民登録であった。
2:3 人々はみな登録のために、それぞれ自分
の町に帰って行った。
2:4 ヨセフも、ダビデの家に属し、その血筋
であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユ
ダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って
行った。
2:5 身重になっていた、いいなずけの妻マリ
アとともに登録するためであった。
2:6 ところが、彼らがそこにいる間に、マリ
アは月が満ちて、
2:7 男子の初子を産んだ。そして、その子を
布にくるんで飼葉桶に寝かせた。宿屋には彼
らのいる場所がなかったからである。
2:8 さて、その地方で、羊飼いたちが野宿を
しながら、羊の群れの夜番をしていた。
2:9 すると、主の使いが彼らのところに来て、
主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常
に恐れた。
2:10 御使いは彼らに言った。「恐れることは
ありません。見なさい。私は、この民全体に
与えられる、大きな喜びを告げ知らせます。
2:11 今日ダビデの町で、あなたがたのために
救い主がお生まれになりました。この方こそ
主キリストです。
2:12 あなたがたは、布にくるまって飼葉桶に
寝ているみどりごを見つけます。それが、あ
なたがたのためのしるしです。」
2:13 すると突然、その御使いと一緒におびた
ただしい数の天の軍勢が現れて、神を賛美した。

Bible Reference 聖書の記述

2:14 「いと高き所で、栄光が神にあるよう
に。地の上で、平和がみこころにかなう
人々にあるように。」

イエス様は全能の創造主であるにも関わらず、皇帝アウグストに比べても小さな弱い存在として、この世に生まれました。そしてその謙遜の限りを尽くしたゆえに、全てにまさる栄誉をお受けになったのです。私たちは弱い小さな者であることを恥じることなく、むしろその謙遜を極めて生きましょう。そこにこそ主の栄誉が与えられることを知って、希望としましょう。

宿屋の主人は主イエスをお迎えするにはあまりにむさくるしい馬小屋を与えました。私たちは、救い主を心の王座に、人生の中心にお迎えしましょう。

飼い葉おけに赤ちゃんとして地上に来られた救い主は、誰もがへりくだるなら会うことのできるお方として、そのようにお生まれになりました。主のこのような愛を覚えて、いつも主に近づきましょう。

また主が馬小屋にお生まれになったのは、人の心の汚れを、その身にお受けになるという象徴でもあります。私たちは、自分の汚れに敏感に気づき、正直にそれを認め、そして汚れているからこそ主をお迎えしましょう。そしてきよい者と変えていただきましょう。

羊飼いに救い主の誕生が告げられました。彼らはこの世的には報われない人生を送っていた人々でしたが、神様はそのような人々を見過ごしにはなさらないのです。むしろ、そのような人々を特別に愛して、その栄光を真っ先に表してくださいました。神様の価値観はこの世のものとは違い、ただその人の人格を尊重する愛の方であることが分ります。

羊飼いいたちのように、自分がみじめに感じたり、価値がないように感じるときは、主が見ていてくださるということを思い出しましょう。私たちもそのような愛によって育てられ、また同じように人格を尊重する者となりましょう。そして主に喜んでいただき、主に特別に扱っていただけることを信じて、与えられた働きに励みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？